



かどわきっ子

心に届ける



先々週は、「かどわきっ子の心を見つめる教育週間」に多くの方に御参観をいただきました。誠にありがとうございます。初日の校長講話で、子どもたちに尋ねました。「どうして、この教育週間があるのだと思いますか？」

残念ながら、誰も答えることができませんでした。恥ずかしかったり自信がもてなかったりしたお子さんもいるかもしれません。県内すべての学校で、20年以上の長きに渡って取り組まれている教育週間です。しかし、その意義を子どもたち一人一人に届けることができずにいたことを恥ずかしくもあり至らなさを痛感もした次第でした。

つまりは、子どもたちにとって「させられている学び」の一つになっていたということです。

先週29日(月)からは、平和学習週間として、たて割り班での折り鶴づくりが始まりました。高学年は、下級生にお手本を見せたり、折り方を教えたりしながら取り組んでいます。



毎年のことですが、6年生は、折り方が違っていたり、雑になっていたりする鶴をまた折り直すことがあります。きれいな鶴を届けたい。折る作業そのものが、平和を祈る心なのだと理解しているからでしょう。平和を考えることの大切さは、子どもたちの心に届いています。

私たちは、学びの意義、活動の意味などを子どもたち一人一人の心に届けることが仕事です。昔、ある先輩が言っていました。「子どもが取り組まないとき、『どうしてしないの』と問い詰める？ それとも『どうしたらするようになるだろう』と悩む？」と。大人が腐心した分だけ、子どもは成長するはず。7月は、ココロねっこ運動強調月間です。

めざす児童像

「やさしく・かしこく・たくましく」のアップのために「チャレンジ」すること。第3回目は「掃除」についてです。

御存知の方が多いかもかもしれませんが、児童が学校を掃除する国は、日本、台湾、シンガポール



など、世界では約1～2割程度と少数です。最近では、その教育的効果が注目され、エジプトやイギリスの一部でも取り入れられ話題となりました。

欧米の多くの学校では、「学校は勉強する場所であり、掃除は専門の業者の仕事」という考え方が一般的です。

では、なぜ日本では掃除の文化が根付いたのでしょうか。諸説ありますが、神道や仏教などの宗教の教えとも言われています。神道では、清めることは神様を迎えるための神聖な儀式であり、仏教では、心を磨くための最も重要な修行とされています。

明治時代には、掃除は正式な学習の一部と位置付けられました。それ以降、掃除は「心を育てる」という日本独自の教育観のもと、「①責任感をもつ、②協力する力を育てる、③物を大切にする」という三つの目的を掲げて取り組まれました。

つまりは、「掃除＝人間として成長するための大切な勉強」という考え方が、社会全体に染み込み、文化として根付いていったのです。全く同感です。かどわきっ子の「心を育てる、心を磨く」ことにみんなでチャレンジしていきます。



おもな行事

- 1日(水) 平和学習(6/29～7/19、8/9)
折り鶴づくり
ココロねっこ運動強調月間(～7/31)
- 2日(木) B & G水泳学習(3～6年)
委員会活動
- 3日(金) 折り鶴づくり
- 6日(月) 面談週間(～7/10)
七夕集会(放送委員会主催)
- 7日(火) 短縮授業(～7/13)
ダンスパーティー(ミュージッククラブ主催)
- 8日(水) B & G水泳学習(3～6年)
- 9日(木) PTA本部役員会・評議員会
- 11日(土) 夏の全国交通安全週間(～7/17)
- 13日(月) 1・2年校外学習(ぶどう袋掛け)
- 14日(火) 保護者面談(～7/16)
- 17日(金) 大掃除、終業式、集団下校